

命と心を 育む社会を目指して

佐賀県議会議員

下田ひろし県政報告

発行

佐賀県議会議員 下田 寛

〒841-0026

佐賀県鳥栖市本鳥栖町 1479-1-103

TEL090-4994-8312 E-mail:hiroshi_shimoda_bmse13@yahoo.co.jp

vol.5

2020年7月



令和2年6月定例会 一般質問

難病患者の公的施設の利用料減免が実現!!



今回、6月議会定例会の一般質問において、「難病患者の公的施設の利用料減免」について知事に提案したところ、山口知事から「難病患者には出来るだけ多くの社会参加の機会をつくっていきたいと考えており、公的施設を総点検し、できるだけ早く減免措置が実現できるように関係部に調整させたいと思っています。」という趣旨の答弁がありました。

現在、佐賀県内で指定難病医療受給者証を取得している人は、6660人（5月末現在）です。この方々は、医療費助成や障害者総合支援法上の福祉サー

ビスを受けられるようになっていますが、障害者手帳を持っている人が受けられる公的施設の減免措置については対象になっていません。また、指定難病医療受給者証を取得している人の中で、障害者手帳を持っている人は2～3割程度の人です。平成25年に施行された、障害者総合支援法によって、障害者の定義に「難病等」が追加されたにも関わらず、法施行から7年経った今でも、障害者の枠組みは全国的にも障害者手帳保持者に限られており、市町でも差があります。

今回の佐賀県の決断は、全国的にもほぼ実施されておらず、九州では県全体としての取り組みは初めてであり、全国に向けた制度の谷間解消の新たな1歩となりました。

○災害リスクのある地域への公共施設の設置について

Q 鳥栖に建設予定のごみ処理施設について、施設の設置主体が市や町であっても、県民の不安の声に寄り添い、災害リスクに対する助言などを行うべきではないか？



A 市町等の公共施設については、それぞれの設置主体が判断するものであるが、相談があり、災害対策を考える上で何か力になれる部分があるのであれば、しっかりと対応していきたい。

その他の質問項目

- コロナ禍を踏まえた総合計画の見直しについて
- Society5.0と5Gへの取り組みについて
- 避難所の在り方について
- 佐賀県のICT教育やオンライン授業について



一般質問
の動画は
こちら

佐賀県のIT政策は、この体制で大丈夫!?



答弁の内容は、とても前向きで今後の対策に大きな期待を感じることができました。

本年度から、農林水産商工常任委員会の所属となりました。コロナ禍での経済対策の担当でもあり、かなりのボリュームがある委員会です。さて、今回の質問は「産業労働部における Society5.0 の取り組みについて」と題し、一般質問に引き続いて、佐賀県の 5G をはじめとした IT 分野の取り組みについて質問しました。本年度から佐賀県に「DX (デジタルトランスフォーメーション)・スタートアップ推進室」という、聞き慣れない横文字の IT の先端を担う専門部署が設置されています。しかし、佐賀県の IT 関連の部署は、総務部・政策部、そして産業労働部にまたがっていることから、組織体制の在り方や、県庁内での理解促進の在り方などについて質問しました。



委員会質問の動画は
こちら

活動報告写真

4月



飲食店テイクアウト。鳥栖市内に冊子が配られました。どれだけ貢献できたかはわかりませんが、テイクアウトのおかげで体重が増えました。

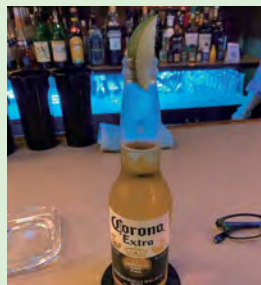


ほとんど全ての公務がコロナにより中止。とにかく子供という時間が増えました。ひたすら散歩に。時に近所の人とお話ししながら情報交換。市内のお花見やサイクリングなど。

5月



ウェビナー(ウェブセミナー)。パソコンを活用した会議や勉強会を開催しました。時にはウェブ飲み会。今後はこういったスタイルも、どんどん当たり前の世の中になるのでしょうか。



緊急事態宣言解除、久しぶりの外食。コロナに負けない為にも、コロナを飲み干して見みる。「三密」という言葉は、日本人の心に刻まれました。新しい生活様式を模索しなければならぬ。

6月



花火。コロナに負けるな! ということで、有志による打ち上げ花火。牛原あたりで打ち上げられました。3分ほどでしたが、気持ちも晴れやか。今年の夏にもう一回鳥栖市内であるらしい!?



ソーシャルディスタンス昼食会。まじめにやるとこんな感じですね。マイクがないとまともに会話ができませんでしたので、一人でご飯食べているような感じでした。ウェブで昼食会ミーティングした方が楽しいんじゃないかなとか思いつつ、勉強になりました。

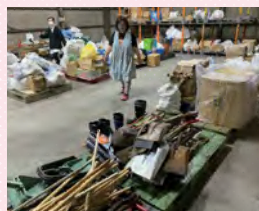
あとかき

コロナと災害 ～支援物資を熊本へ～

この活動報告の最終まとめを作成している段階で、鳥栖市内含め、凄まじい雨に見舞われました。また、熊本県内は人吉をはじめ、私の仲間が住む地域も痛恨の打撃を受けました。早速全国から集まったトラック 4 台分の物資を持って、集積拠点の宇土市へ向かいました。被災地支援に入りたいですが、コロナの影響もあり、支援は県内の人員に限るとのこと。

「以前のような生活に戻りたい。」心の底で多くの人がそう思っているでしょう。しかし、コロナの影響は、これからは本番であり、社会の様式が強制的に変化するまで解決しないのではないかとさえ感じています。

「変わらないために変わる」。本質を突き詰めることが全てにおいて求められます。



登録
お願い
します
変更しました!



<https://lin.ee/opcwmAn>